

# 2023年3月期第2四半期 決算補足説明資料

京浜急行電鉄株式会社（証券コード：9006）

2022年11月11日

<https://www.keikyu.co.jp>

I. エグゼクティブ・サマリー	P. 2
II. 2023年3月期 第2四半期決算実績	P. 4
III. 2023年3月期 業績予想	P. 19
IV. 鉄道事業における取り組み	P. 33

I. エグゼクティブ・サマリー	P. 2
II. 2023年3月期 第2四半期決算実績	P. 4
III. 2023年3月期 業績予想	P. 19
IV. 鉄道事業における取り組み	P. 33

## 対前年同期（2021年度2Q）

- 新型コロナウイルス感染症による影響は継続しているものの、回復基調で推移し、**増収増益**

鉄道運輸収入	+16.3%	バス営業収益	+14.9%	ビジネスホテル稼働率	+30.9pt
--------	--------	--------	--------	------------	---------

## 対コロナ前（2018年度2Q）

- 新型コロナウイルス感染症による影響は縮小しているものの、**大幅減収減益**

鉄道運輸収入	△22.8%	バス営業収益	△25.3%	ビジネスホテル稼働率	△23.4pt
--------	--------	--------	--------	------------	---------

## 対当初（5月）予想（2022年度2Q）

- 営業収益：+8億円（レジャー・サービス事業+13億円、不動産事業+6億円、流通事業△3億円）
- 営業利益：+29億円（不動産事業+9億円、レジャー・サービス事業+9億円、交通事業+8億円）

鉄道運輸収入	△0.2%	バス営業収益	△1.3%	ビジネスホテル稼働率	+10.4pt
--------	-------	--------	-------	------------	---------

## 2022年度 業績予想 据え置き（セグメント内訳のみ修正）

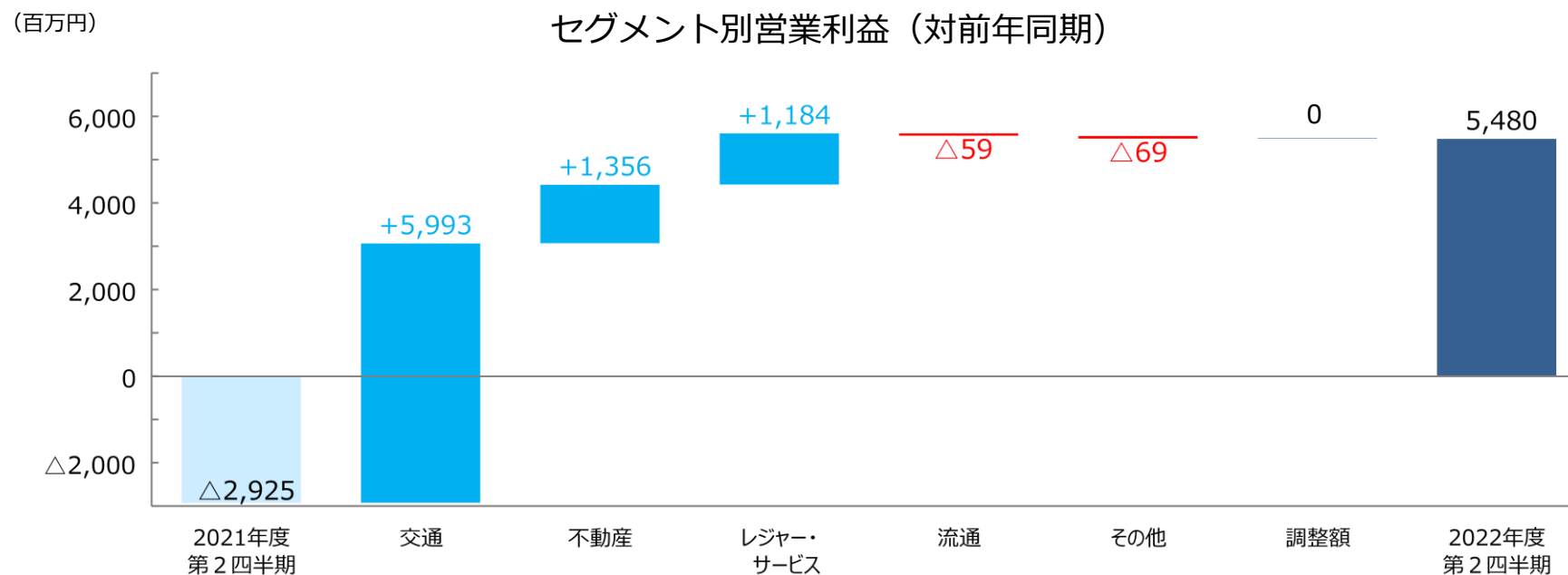
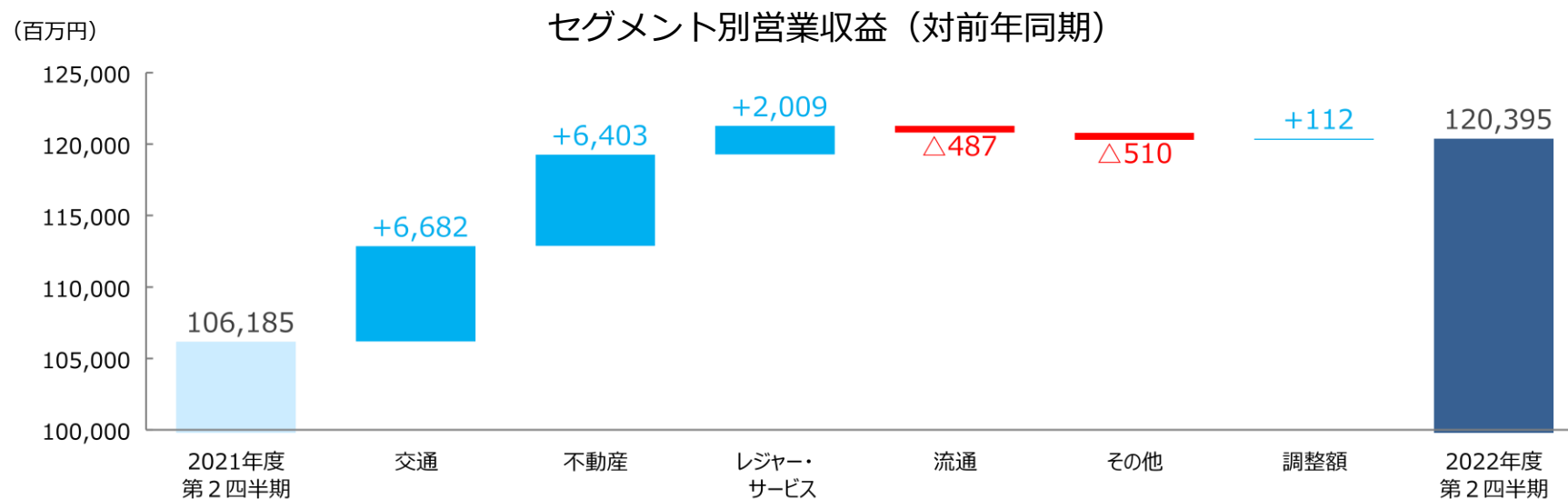
修正内容	レジャー・サービス事業	：営業収益+13億円、営業利益+8億円 増額修正
	流通事業	：営業収益△3億円、営業利益△4億円 減額修正
	交通事業	：営業収益△3億円、営業利益△8億円 減額修正
理由	レジャー・サービス事業	：ビジネスホテル需要回復、平和島レジャー施設好調のため
	流通事業	：スーパーマーケット業の収益減（商品値上げに伴う買上点数減等の影響）のため
	交通事業	：動力費高騰のため

I. エグゼクティブ・サマリー	P. 2
II. 2023年3月期 第2四半期決算実績	P. 4
III. 2023年3月期 業績予想	P. 19
IV. 鉄道事業における取り組み	P. 33

(単位：百万円)	2022年度 2Q実績	2021年度 2Q実績	増減額	増減率
営業収益	120,395	106,185	+14,210	+13.4%
営業利益	5,480	△ 2,925	+8,405	－%
経常利益	4,634	△ 2,380	+7,014	－%
親会社株主に帰属する 四半期純利益	12,529	7,597	+4,931	+64.9%
1株当たり 四半期純利益	45.51円	27.60円	+17.91円	

(単位：百万円)		2022年度 2Q実績	2021年度 2Q実績	増減額	増減率
交通事業	営業収益	48,326	41,643	+6,682	+16.0%
	営業利益	858	△5,134	+5,993	－%
不動産事業	営業収益	22,117	15,714	+6,403	+40.7%
	営業利益	2,919	1,562	+1,356	+86.8%
レジャー・ サービス事業	営業収益	13,331	11,321	+2,009	+17.8%
	営業利益	916	△267	+1,184	－%
流通事業	営業収益	34,605	35,092	△487	△ 1.4%
	営業利益	445	505	△59	△ 11.7%
その他	営業収益	16,199	16,710	△510	△ 3.1%
	営業利益	124	194	△69	△ 36.0%

# セグメント別営業収益・営業利益の増減





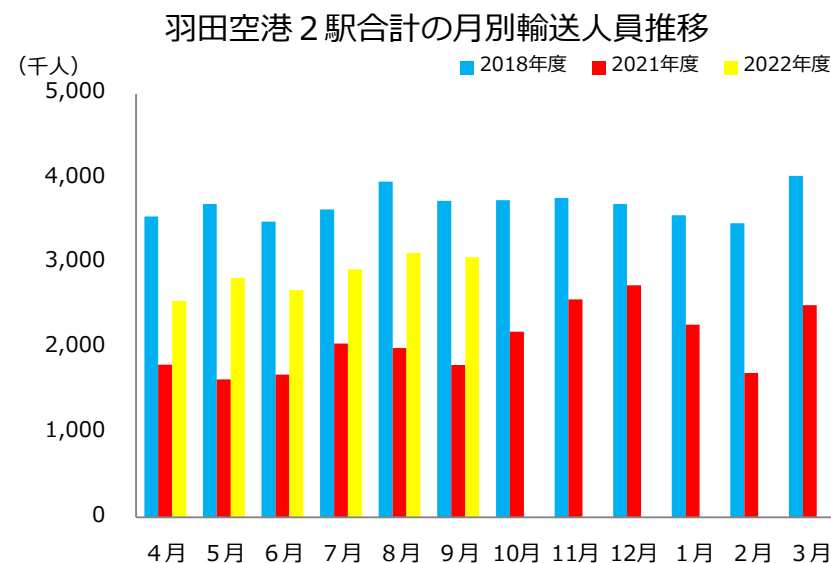
単位：百万円	2022年度 2Q実績	2021年度 2Q実績	増減額	増減率	主な増減理由
営業収益	48,326	41,643	+6,682	+16.0%	<b>鉄道事業：</b> 定期外収入の増  <b>バス事業：</b> 空港・中距離路線収入の増
鉄道事業	33,401	28,808	+4,592	+15.9%	
バス事業	13,122	11,418	+1,703	+14.9%	
タクシー事業	1,802	1,416	+386	+27.3%	
営業利益	858	△ 5,134	+5,993	－%	
鉄道事業	1,467	△ 2,561	+4,028	－%	
バス事業	△ 594	△ 2,410	+1,816	－%	
タクシー事業	△ 13	△ 162	+148	－%	

## <鉄道事業の輸送人員・旅客運輸収入の内訳>

	輸送人員（千人）				旅客運輸収入（百万円）			
	2022年度 2Q実績	2021年度 2Q実績	増減数	増減率	2022年度 2Q実績	2021年度 2Q実績	増減額	増減率
定期	108,052	100,008	+8,044	+8.0%	12,268	11,887	+380	+3.2%
定期外	91,731	75,004	+16,727	+22.3%	19,840	15,713	+4,126	+26.3%
合計	199,783	175,012	+24,771	+14.2%	32,108	27,601	+4,507	+16.3%

## <羽田空港2駅の輸送人員>

	輸送人員（千人）			
	2022年度 2Q実績	2021年度 2Q実績	増減数	増減率
第1・第2ターミナル （国内線）	15,086	9,470	+5,616	+59.3%
第3ターミナル （国際線）	2,090	1,492	+598	+40.1%
合計	17,176	10,962	+6,214	+56.7%



単位：百万円	2022年度 2Q実績	2021年度 2Q実績	増減額	増減率	主な増減理由
営業収益	22,117	15,714	+6,403	+40.7%	<b>不動産販売業：</b> マンション分譲：351戸（対前年同期+222戸）  <b>不動産賃貸業：</b> 不動産ファンドからの配当収入が増加したことによる増
不動産販売業	13,186	7,309	+5,877	+80.4%	
不動産賃貸業	8,930	8,404	+526	+6.3%	
営業利益	2,919	1,562	+1,356	+86.8%	
不動産販売業	235	△ 566	+801	-%	
不動産賃貸業	2,683	2,129	+554	+26.0%	

## <2022年度主な引渡し物件>

(単位：戸)	総戸数	引渡し開始時期
プライム金沢文庫	106	2023年3月予定
プレミスト王子神谷	227	2023年2月予定
プライム川崎小島新田	116	2022年9月
ブルーズタワー芝浦	482	2022年1月

単位：百万円	2022年度 2Q実績	2021年度 2Q実績	増減額	増減率	主な増減理由
営業収益	13,331	11,321	+2,009	+17.8%	<b>ビジネスホテル業：</b> 宿泊需要回復による増  <b>レジャー関連施設業：</b> 平和島レジャー施設の売上増
ビジネスホテル業	2,299	1,407	+892	+63.4%	
レジャー関連施設業	6,274	5,612	+661	+11.8%	
レジャーその他	4,757	4,301	+455	+10.6%	
営業利益	916	△ 267	+1,184	-%	
ビジネスホテル業	△ 791	△ 1,240	+449	-%	
レジャー関連施設業	1,255	730	+524	+71.7%	
レジャーその他	452	241	+211	+87.2%	

## 京急EXホテル・京急EXイン客室稼働率

	2022年度 2Q実績	2021年度 2Q実績	増減数	2022年 9月末	2022年 3月末
稼働率	70.4%	39.5%	+30.9pt		
客室数（室）				2,236	2,516

単位：百万円	2022年度 2Q実績	2021年度 2Q実績	増減額	増減率	主な増減理由
営業収益	34,605	35,092	△487	△1.4%	<b>百貨店業・SC業：</b> 新型コロナウイルス感染症の影響縮小に伴う増 <b>スーパーマーケット業：</b> 内食特需の反動、商品値上げに伴う買上点数減 などによる減
百貨店・SC業	8,163	7,306	+857	+11.7%	
百貨店業	6,094	5,917	+177	+3.0%	
SC業	2,068	1,388	+679	+48.9%	
ストア業	26,442	27,786	△1,344	△4.8%	
スーパーマーケット業	20,157	21,533	△1,376	△6.4%	
コンビニ・物販業ほか	6,285	6,253	+31	+0.5%	
営業利益	445	505	△59	△11.7%	
百貨店・SC業	230	△142	+373	-%	
百貨店業	50	△110	+160	-%	
SC業	180	△32	+212	-%	
ストア業	215	648	△432	△66.7%	
スーパーマーケット業	△76	344	△420	-%	
コンビニ・物販業ほか	292	304	△12	△4.0%	

単位：百万円	2022年度 2Q実績	2021年度 2Q実績	増減額	増減率	主な増減理由
営業収益	16,199	16,710	△510	△3.1%	完成工事の減少による減
営業利益	124	194	△69	△36.0%	

(単位：百万円)	2022年度 2Q実績	2021年度 2Q実績	増減額	主な内訳
営業外収益	1,211	2,738	△1,527	投資有価証券売却益 62 (対前年同期 △1,285)
営業外費用	2,056	2,193	△136	
特別利益	13,938	17,093	△3,154	固定資産売却益 13,092 (対前年同期 △3,128) ※
特別損失	1,186	1,229	△42	

※ 2021年度2Q累計：不動産流動化による固定資産3物件（京急第2ビル、京急第7ビル、金沢八景第1京急ビル）売却  
 2022年度2Q累計：京浜急行バス営業所、ビジネスホテル3館売却

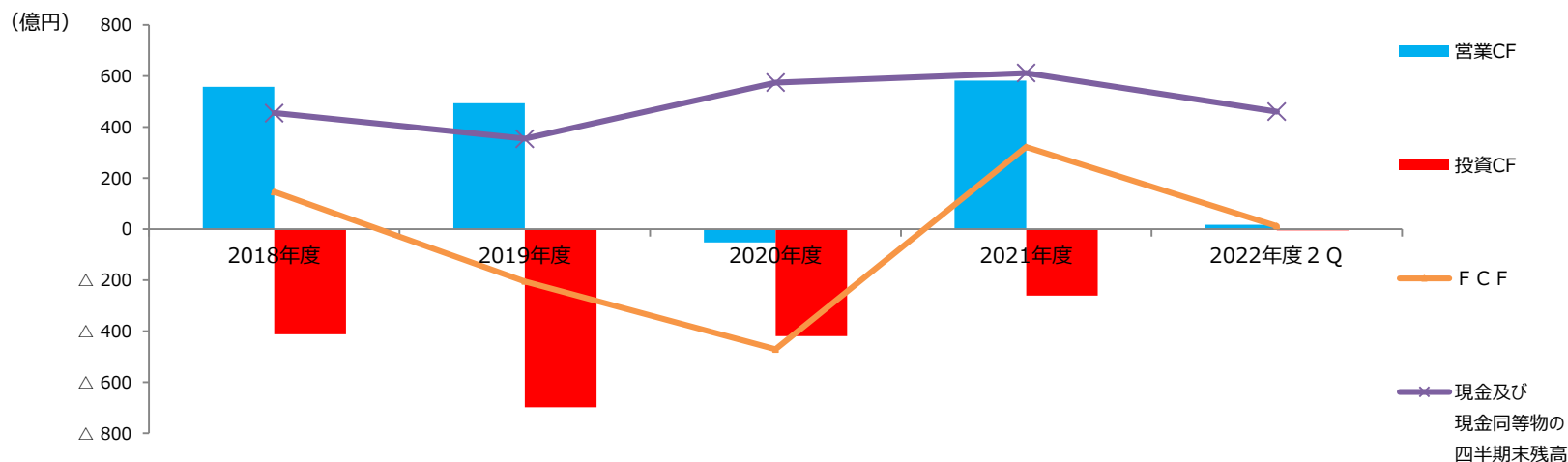
# 連結貸借対照表（概要）

(単位：百万円)	2022年9月末	2022年3月末	増減額
流動資産	124,348	128,019	△3,670
現金及び預金	46,163	61,384	△15,221
分譲土地建物	57,026	46,396	+10,629
固定資産	780,435	784,365	△3,930
有形固定資産	626,583	631,790	△5,207
投資その他の資産	147,079	145,149	+1,929
投資有価証券	88,667	85,846	+2,821
<b>資産合計</b>	<b>904,784</b>	<b>912,385</b>	<b>△7,601</b>
負債合計	633,902	655,500	△21,598
有利子負債残高※	474,558	489,668	△15,110
純資産合計	270,881	256,884	+13,997
<b>負債純資産合計</b>	<b>904,784</b>	<b>912,385</b>	<b>△7,601</b>
※社債、借入金の合計額			
純有利子負債残高	428,395	428,284	+110
自己資本比率	29.7%	27.9%	+1.8pt



(単位：百万円)	2022年度 2 Q実績	2021年度 2 Q実績	増減額
営業活動によるキャッシュ・フロー	1,758	2,035	△276
投資活動によるキャッシュ・フロー	△542	△7,880	+7,337
財務活動によるキャッシュ・フロー	△16,482	△5,908	△10,574
現金及び現金同等物の増減額	△15,221	△11,748	△3,472
現金及び現金同等物の四半期末残高	46,013	45,701	+311

## 【参考】フリーキャッシュフロー（営業CF + 投資CF）の推移



# 【参考】2021・2022年度連結決算実績（四半期別）

(単位：百万円)		2021年度				2022年度	
		1Q (4月～6月)	2Q (7月～9月)	3Q (10月～12月)	4Q (1月～3月)	1Q (4月～6月)	2Q (7月～9月)
交通事業	営業収益	20,912	20,731	23,315	21,302	24,231	24,094
	営業利益	△3,148	△1,986	△1,051	△3,768	△201	1,060
不動産事業	営業収益	8,394	7,319	16,394	47,305	10,482	11,635
	営業利益	1,094	468	2,987	6,386	1,277	1,641
レジャー・サービス事業	営業収益	5,027	6,294	6,315	6,359	6,697	6,634
	営業利益	△707	439	294	181	648	268
流通事業	営業収益	17,162	17,930	17,980	16,749	17,182	17,423
	営業利益	262	243	297	△40	267	178
その他	営業収益	7,660	9,049	9,060	15,818	7,311	8,888
	営業利益	△73	268	274	1,209	△168	292
営業収益		52,713	53,471	65,428	93,624	59,512	60,883
営業利益		△2,483	△441	2,728	3,707	1,931	3,548
経常利益		△2,011	△368	2,840	4,605	1,743	2,891
親会社株主に帰属する当期純利益		8,643	△1,046	1,777	3,154	8,343	4,186
鉄道旅客運輸収入	定期	6,029	5,858	5,842	5,768	6,159	6,108
	定期外	7,861	7,851	9,652	8,485	9,935	9,905
	合計	13,891	13,710	15,494	14,253	16,095	16,013

# 【参考】2018年度連結決算実績（コナ前）

(単位：百万円)		1Q	2Q	2Q累計	3Q	3Q累計	4Q	年度累計
		(4月～6月)	(7月～9月)	(4月～9月)	(10月～12月)	(4月～12月)	(1月～3月)	(4月～3月)
交通事業	営業収益	31,212	31,730	62,942	31,323	94,265	30,482	124,748
	営業利益	5,479	6,744	12,223	4,762	16,985	3,834	20,819
不動産事業	営業収益	10,045	7,785	17,831	17,936	35,767	34,160	69,927
	営業利益	1,044	1,095	2,139	2,844	4,983	3,465	8,449
レジャー・サービス事業	営業収益	8,842	9,691	18,533	10,026	28,560	9,448	38,009
	営業利益	1,614	1,904	3,519	1,960	5,479	864	6,343
流通事業	営業収益	26,420	26,530	52,951	28,019	80,970	25,617	106,588
	営業利益	615	576	1,192	836	2,028	332	2,361
その他	営業収益	8,125	11,069	19,195	11,460	30,655	25,207	55,863
	営業利益	△4	593	588	616	1,205	2,816	4,022
営業収益		75,450	75,626	151,077	86,740	237,817	101,450	339,268
営業利益		8,733	10,489	19,222	10,600	29,823	10,324	40,147
経常利益		8,362	9,632	17,994	9,941	27,936	9,838	37,774
親会社株主に帰属する当期純利益		5,588	6,779	12,368	6,953	19,322	1,391	20,714
鉄道旅客 運輸収入	定期	8,108	8,066	16,174	7,847	24,022	7,895	31,917
	定期外	12,595	12,807	25,403	12,894	38,297	12,615	50,913
	合計	20,704	20,873	41,578	20,741	62,320	20,511	82,831

I. エグゼクティブ・サマリー	P. 2
II. 2023年3月期 第2四半期決算実績	P. 4
III. 2023年3月期 業績予想	P. 19
IV. 鉄道事業における取り組み	P. 33

# 業績予想（前提条件）

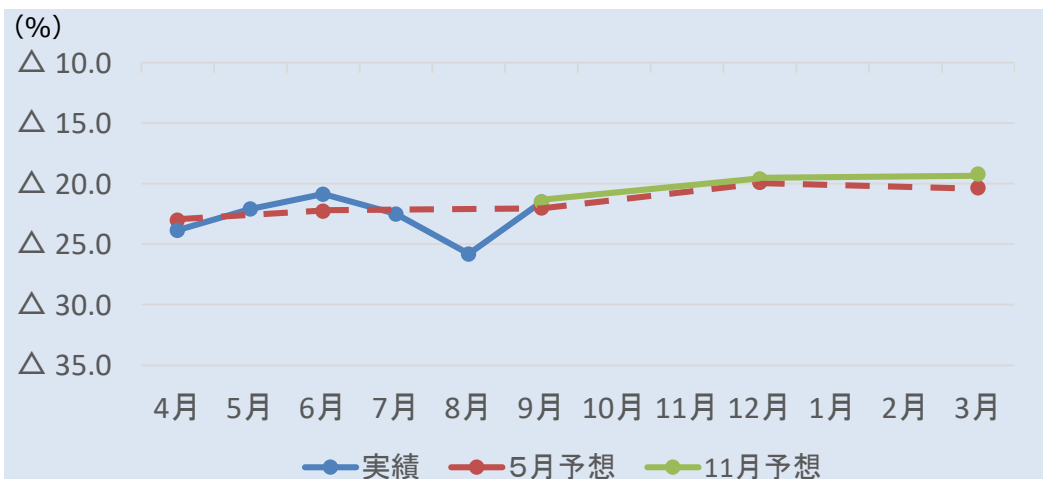
新型コロナウイルス感染症の影響による行動自粛・各種制限等は2023年4月に向けて緩やかに収束し、事業環境は平常化に向かうと仮定

※ただし、事業によっては、コロナ影響からの回復が遅れること、社会環境や生活様式の変化により平常化の水準がコロナ以前とは異なることも想定  
 ※羽田空港航空旅客数については、国内線は2023年4月、国際線は2024年4月に回復

		5月予想	11月予想
交通事業	鉄道事業	2022年度運輸収入は、対コロナ前 下期：△20%、通期：△22%	動力費の増加等の影響により下方修正 (鉄道運輸収入、バス営業収益の予想は変更なし)
	バス事業	営業収益は、対コロナ前 通期：△24%	
不動産事業	賃貸業	平常時同様と想定	(変更なし)
レジャー・サービス事業	ビジネスホテル業	稼働率 通期：約60% (対コロナ前 約△30pt)	稼働率 通期：約70% (対コロナ前 約△20pt) △変更により上方修正
流通事業	百貨店・SC業	需要は徐々に回復	(変更なし)
	スーパーマーケット業	平常時同様と想定	商品値上げに伴う買上点数減等の影響で下方修正
	コンビニ・物販業ほか	鉄道輸送人員回復に伴い、駅ナカ店舗を中心に回復	(変更なし)

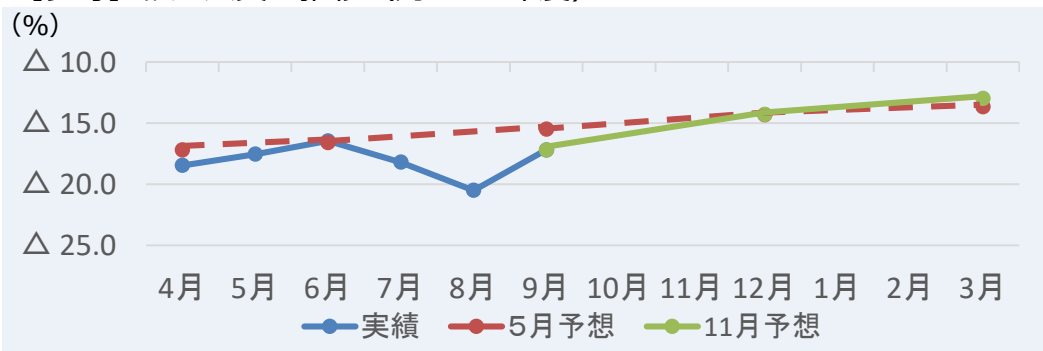
## ◆鉄道事業

＜運輸収入の推移（対2018年度）＞



	2022年度 上期実績	2022年度 下期予想	2022年度 通期予想
定期	△24%	△21%	△23%
定期外	△22%	△20%	△21%
合計	△23%	△20%	△22%

【参考】輸送人員の推移（対2018年度）

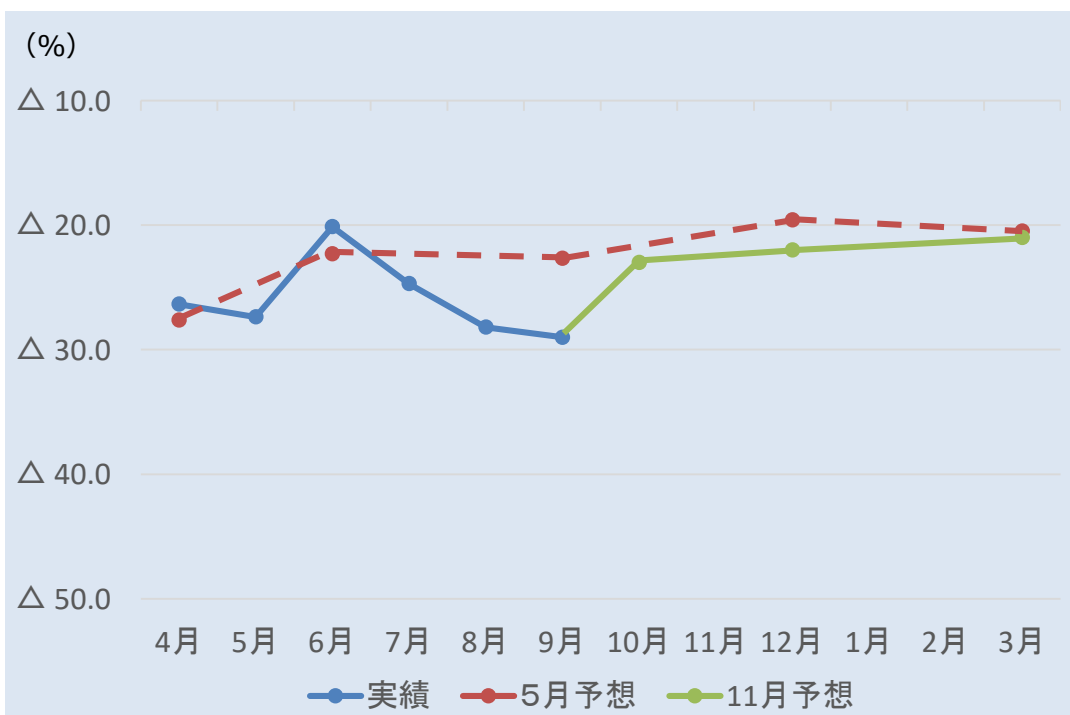


### 【10月速報（利用者数）】

- 自動改札機通過人員ベースでは、対2018年度約△15%減（対前年約10%増）、羽田空港2駅は対2018年度約△10%減（対前年約60%増）で推移
- よって、対予想では輸送人員は概ね想定どおりとなる見込

## ◆バス事業

＜営業収益の推移（対2018年度）＞



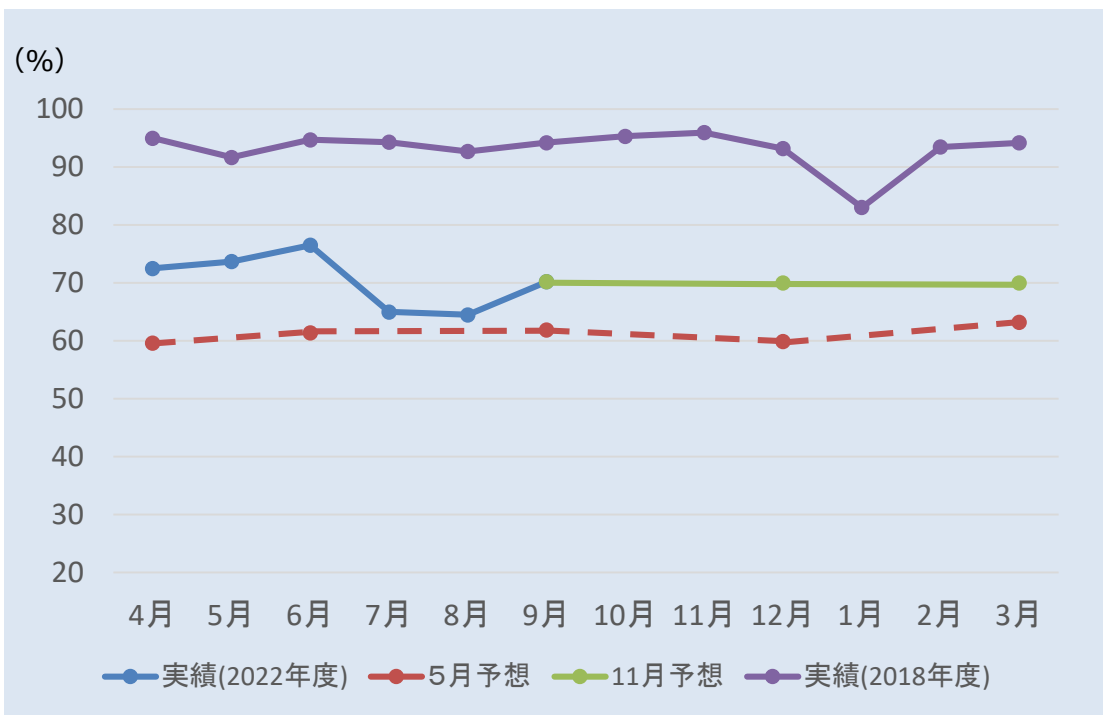
	2022年度 上期実績	2022年度 下期予想	2022年度 通期予想
営業収益	△26%	△22%	△24%

### 【10月速報（営業収益）】

- 営業収益は対2018年度約△20%減（対前年約20%増）で推移
- 対予想では概ね想定どおりのペース

## ◆ビジネスホテル業

＜稼働率の推移＞



	2022年度 上期実績	2022年度 下期予想	2022年度 通期予想
稼働率	70%	約70%	約70%

### 【10月速報（稼働率）】

- 稼働率は約70%で推移
- 対予想では概ね想定どおりのペース



# 連結損益計算書（業績予想）

(単位：億円)	2022年度	2021年度	増減額
営業収益	2,570	2,652	△82
営業利益	80	35	+44
経常利益	50	50	—
親会社株主に帰属する 当期純利益	150	125	+24

※2022年5月11日発表の  
業績予想から変更なし

(単位：億円)	11月予想	5月予想	増減額	(参考) 2021年度
設備投資額 ※ (うち、不動産流動化SPC出資)	1,085 (157)	1,052 (117)	+32 (+40)	700 (178)
減価償却費	284	287	△3	295
1株当たり 当期純利益	54.49円	54.49円	—	45.52円

※ 工事負担金等（11月予想138億円、5月予想139億円、2021年度36億円）を含む

(単位：億円)		11月予想	5月予想	増減額	(参考) 2021年度
交通事業	営業収益	977	980	△3	862
	営業利益	△8	0	△8	△99
不動産事業	営業収益	543	550	△7	794
	営業利益	60	60	—	109
レジャー・サービス事業	営業収益	258	245	+13	239
	営業利益	8	0	+8	2
流通事業	営業収益	692	695	△3	698
	営業利益	6	10	△4	7
その他	営業収益	445	445	—	415
	営業利益	14	10	+4	16

(単位：億円)

	営業収益				営業利益			
	11月予想	5月予想	増減額	(参考) 2021年度	11月予想	5月予想	増減額	(参考) 2021年度
交通事業計	977	980	△3	862	△8	0	△8	△99
鉄道事業	677	680	△3	598	6	20	△14	△52
バス事業	263	265	△2	233	△14	△20	+6	△45
タクシー事業	37	35	+2	30	0	0	-	△2

<鉄道事業の輸送人員・旅客運輸収入の内訳>

	輸送人員（百万人）				旅客運輸収入（億円）			
	11月予想	5月予想	増減数	（参考） 2021年度	11月予想	5月予想	増減額	（参考） 2021年度
定期	216	220	△3	200	247	251	△4	234
定期外	188	189	△0	160	403	398	+4	338
合計	405	409	△4	360	650	650	+0	573

<羽田空港2 駅合計の輸送人員>

	輸送人員（百万人）			
	11月予想	5月予想	増減数	（参考） 2021年度
第1・第2ターミナル （国内線）	31	30	+0	21
第3ターミナル （国際線）	4	4	+0	3
合計	35	34	+0	24

(単位：億円)	営業収益				営業利益			
	11月予想	5月予想	増減額	(参考) 2021年度	11月予想	5月予想	増減額	(参考) 2021年度
不動産事業計	543	550	△7	794	60	60	－	109
不動産販売業	364	372	△8	625	23	20	+3	68
不動産賃貸業	179	178	+1	168	37	40	△3	40

## <2022年度主な引渡し物件>

(単位：戸)	総戸数	引渡し開始時期
プライム金沢文庫	106	2023年3月予定
プレミスト王子神谷	227	2023年2月予定
プライム川崎小島新田	116	2022年9月
ブランズタワー芝浦	482	2022年1月

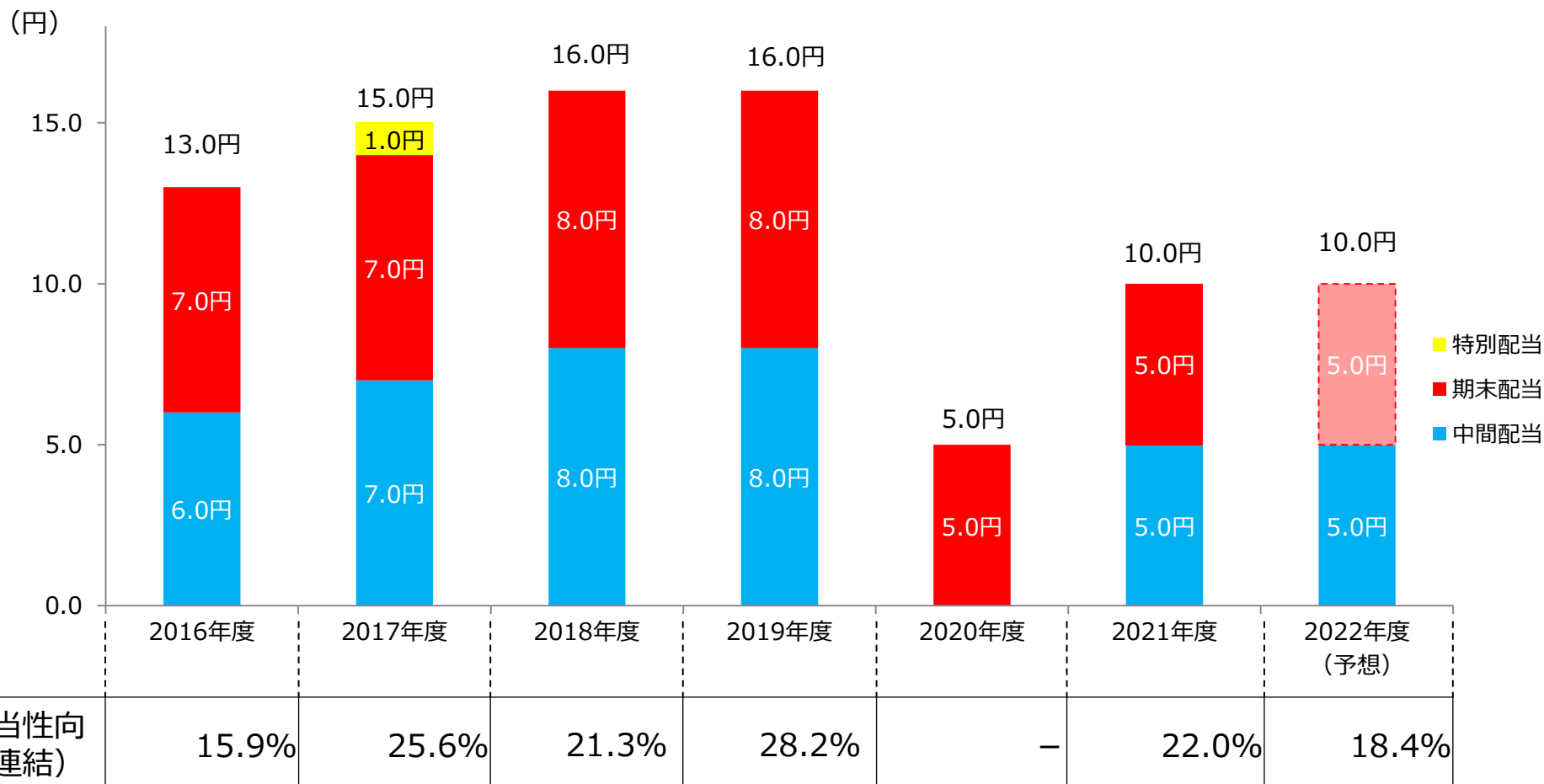
(単位：億円)	営業収益				営業利益			
	11月予想	5月予想	増減額	(参考) 2021年度	11月予想	5月予想	増減額	(参考) 2021年度
レジジャー・サービス事業計	258	245	+13	239	8	0	+8	2
ビジネスホテル業	45	35	+10	31	△16	△20	+4	△20
レジジャー関連施設業	121	120	+1	117	17	15	+2	16
レジジャーその他	92	90	+2	90	7	5	+2	5

(単位：億円)	営業収益				営業利益			
	11月予想	5月予想	増減額	(参考) 2021年度	11月予想	5月予想	増減額	(参考) 2021年度
流通事業計	692	695	△3	698	6	10	△4	7
百貨店・S C業	164	155	+9	151	5	2	+3	△1
百貨店業	125	125	-	123	3	2	+1	△1
S C業	39	30	+9	28	2	0	+2	0
ストア業	528	540	△12	546	1	8	△7	8
スーパーマーケット業	405	418	△13	420	△3	3	△6	3
コンビニ・物販業ほか	123	122	+1	125	4	5	△1	5

(単位：億円)	営業収益				営業利益			
	11月予想	5月予想	増減額	(参考) 2021年度	11月予想	5月予想	増減額	(参考) 2021年度
そ の 他 計	445	445	-	415	14	10	+4	16



- 配当方針：持続的な成長と中長期的な企業価値の向上に資するため、財務の健全性の確保に努めるとともに、成長のための投資と株主還元を両立させる



I. エグゼクティブ・サマリー	P. 2
II. 2023年3月期 第2四半期決算実績	P. 4
III. 2023年3月期 業績予想	P. 19
IV. 鉄道事業における取り組み	P. 33

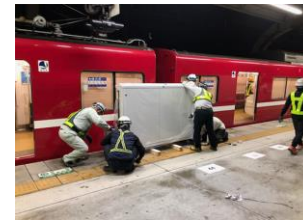
安定利益を継続できる強固な事業構造への変革

ローコストオペレーション

項目		内容
緊急的・一時的 コストダウン (自然減を含む)	人件費	勤務シフト見直しによる時間外の減、賞与の減
	修繕費	工事計画精査・見送り
	償却費	投資計画精査・見送り
	その他費用	除却費
	一般管理費 (宣伝費含)	宣伝・イベント中止等
定常的・構造的 コストダウン (ローコストオペレーション)	人件費	需要に合わせたダイヤの変更・ スマートサポートシステム (駅リモート) 導入等 による省力化
	修繕費	保守・点検業務見直し 終列車時刻の繰り上げ ⇒作業負担の軽減 + 夜間作業の効率化
	経費	委託業務の内製化、デジタル化による業務効率化等
	一般管理費 (宣伝費含)	宣伝計画見直し・本社経費削減等



スマートサポート  
システムの導入



ローコストオペレーション

◆コストダウンの進捗 (対コロナ前減少分)

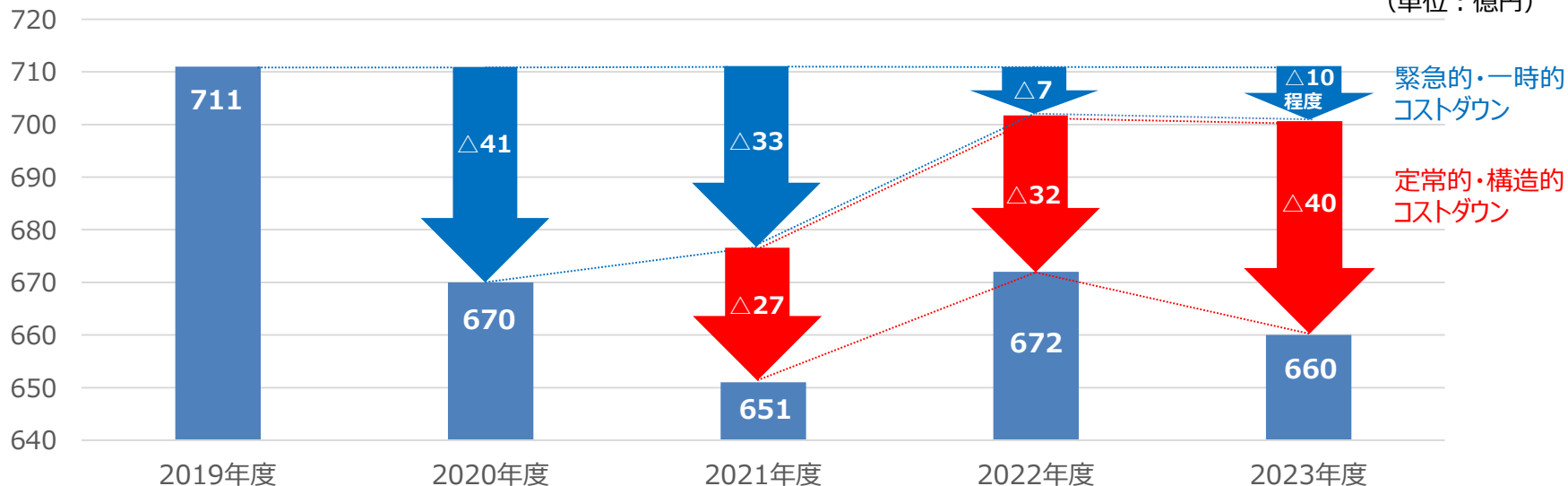
(単位：億円)

項目	2020年度実績	2021年度実績	2022年度2Q実績	2022年度予想	2023年度目標
緊急的・一時的コストダウン (自然減を含む)	△41	△33	△4	※ △7	△10程度
定常的・構造的コストダウン (ローコストオペレーション)	-	△27	△16	△32	△40
総計	△41	△60	△20	※ △39	△50程度

※動力費の増 (対2019年度+15億円、対2021年度+16億円) により、5月予想より約△11億円縮小

◆営業費推移

(単位：億円)



➡ 緊急的⇒定常的への転換へ、事業構造変革を推進 (定常的コストダウンは△40億円まで拡大予定)

新たな生活様式を捉え、沿線のまちづくり・エリアマネジメントを見据えたダイヤ・商品の提供

ダイヤ

2022年11月ダイヤ改正の主なポイント

【平日朝ラッシュ時間帯】

・モーニング・ウィング号の一部運行時間見直し

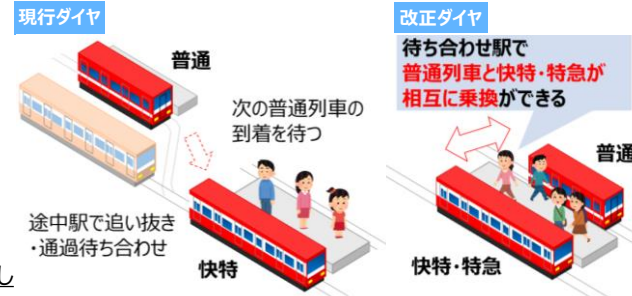
Wing	ご利用状況	品川駅到着時刻	
		現行	改正後
1号	■ ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■	6:58	6:58
3号	■ ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■	7:27	7:27
5号	■ ■ ■ ■ ■	9:20	8:53

☞約30分前倒し

⇒比較的空いている5号を、より利用しやすい時刻へ変更

【日中時間帯】

・本線および空港線の「快特」を交互に「特急」へ変更し、接続改善



【日中時間帯も特急が停車する駅】

- ・青物横丁
- ・追浜
- ・平和島
- ・汐入
- ・神奈川新町
- ・空港線各駅

⇒緩急接続の強化により京急線内の乗り換え利便性向上

ご利用状況や新たな需要を反映したダイヤ改正の実施

商品・サービス

・DX活用による利用拡大

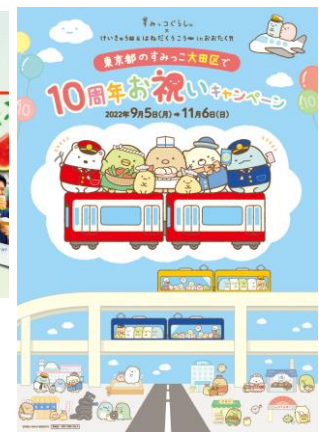
「みさきまぐろきっぷ」をはじめとする企画乗車券のデジタル化を推進

・貸切イベント列車による新たな需要創出

新造車両（愛称：Le Ciel）による貸切イベント列車を毎月開催

・話題性のあるキャンペーン実施による沿線活性化（自治体等との連携）

人気キャラクター「すみっコぐらし」とコラボレーションしたキャンペーン（ラッピング列車や駅装飾、スタンプラリー等）を実施



デジタル基盤を活用した需要分析やサービス改善・沿線や鉄道の魅力を伝える取り組みを推進

さらなる安全対策の強化、ユニバーサルで快適な輸送サービスの提供

2022年度 総額231億円の設備投資を計画

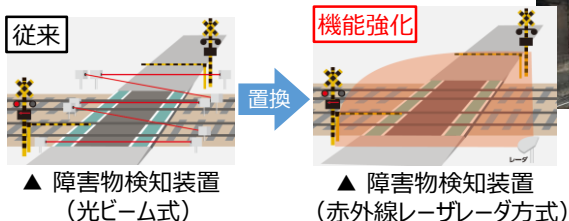
さらなる安全対策の強化

◆連続立体交差事業の推進 (品川駅付近・大師線)

・踏切道除却による交通円滑化・安全性向上 ▼ 品川駅付近

◆踏切安全対策の強化

・障害物検知装置の検知機能強化等



ユニバーサルで快適な輸送サービス提供

◆ホームドア・ホーム固定柵の設置駅拡大

・2022年度から2023年度で10駅に設置予定

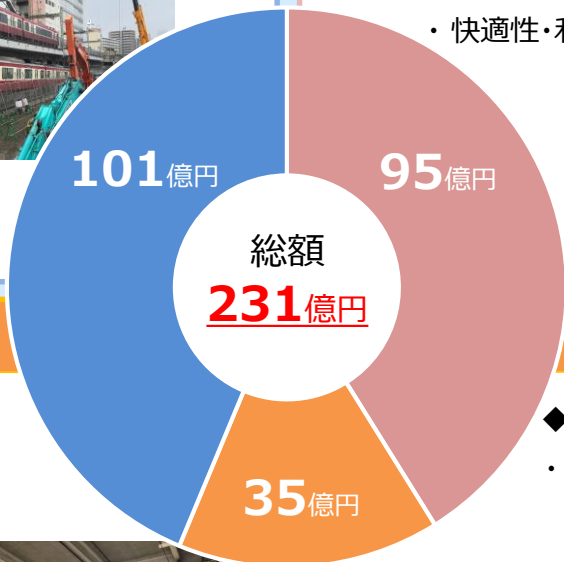
◆駅改良・車両更新工事の推進

・快適性・利便性の高い設備へ更新



▲ ホームドア設置例 (追浜駅)

◀ 車両への  
フリースペースの設置



環境負荷低減に向けた取り組み

◆駅および車両照明設備のLED化

・2022年度は9駅、24両に導入予定

◆省エネルギー設備への更新

・省エネタイプの機器へ更新し、消費電力量削減



上大岡駅ホームの  
LED照明 ▶

◀ 過去のエレベーター更新例  
(羽田空港第1・第2ターミナル駅)



将来の成長に向けた投資

◆羽田空港引上線新設工事

・空港アクセスの輸送力増強



羽田空港第1・第2ターミナル駅

▲ 引上線イメージ図

◆非対面型駅窓口の拡大

・アフターコロナを想定した  
スマートサポートシステムの導入  
(2022年度8駅に導入予定)

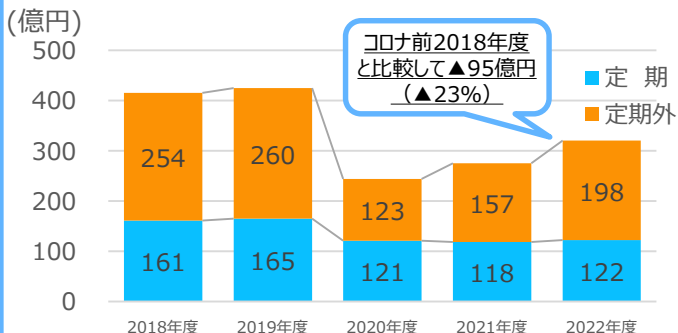


◀ システム導入例  
(上大岡駅3階改札)

## お客さまへご理解いただけるよう今後とも徹底したコスト削減と営業努力を前提としたうえで運賃改定を検討

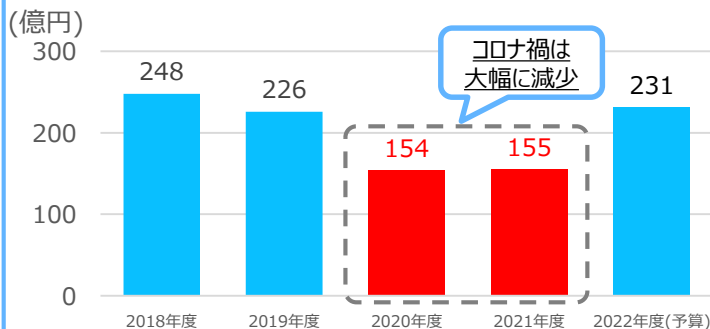
### 運賃改定検討の背景

＜ 第2四半期（4月～9月）旅客運輸収入の推移 ＞



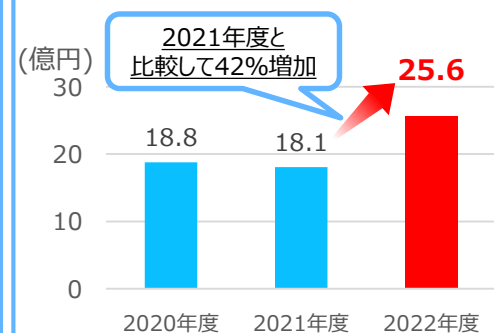
定期：テレワーク等の定着による通勤利用者減・回復停滞  
 定期外：業務利用や航空旅客の大幅減 など  
 ⇒ コロナ前水準への回復は困難と予想

＜ 年間設備投資額の推移 ＞



コロナ禍による業績悪化に伴い、直近2年間は低い投資水準  
 ⇒ これまで以上に安全で快適な輸送サービスを提供していくため、  
今後は多額の設備投資が必要

＜ 第2四半期の電気動力費の推移 ＞



原油価格の高騰などにより、運転および  
 駅設備で使用する電気代が急激に上昇  
 ⇒ 今後もこの傾向が続く見込み

### 運賃改定検討の内容

- ・ 社会の変化によりコロナ前水準へ需要の回復が見込めず、電気動力費や材料費の高騰などが懸念されるなか、今後も適切な設備投資を実施し、鉄道事業運営の健全性を確保することで、長期ビジョンに掲げる「国内外の多くの人々の生活と交流を支え、持続的に発展する豊かな沿線」を実現したいと考えております。
- ・ そのため、コスト削減と営業努力を前提としたうえで、不足する費用の一部をお客さまにご負担いただきたく、運賃改定を検討しております。

◆ **実施時期** 2023年秋頃

◆ **値上げ幅** 平均10%程度を想定

※ 初乗り運賃（きっぷ）は10円程度値上げを想定（140円→150円）

※ 家計負担を考慮し、通学定期旅客運賃は据え置きとする

**【ご注意】**

この資料に記載の情報のうち、過去の事実以外のものは将来の見通しであり、発表時点において想定した各種前提条件を基に作成しております。こうした記載情報は、将来の業績を保証するものではなく、リスクや不確実性を含むものです。実際の業績は、様々な要因によって異なる結果となる場合がありますので、あらかじめご了承ください。

**【お問い合わせ先】**

経営戦略室 IR担当

Tel 045-225-9392

E-mail [ir-keikyu\\_t7z@keikyu-group.jp](mailto:ir-keikyu_t7z@keikyu-group.jp)